

発行者 公益社団法人 関西吟詩文化協会

公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 山口華雋
編集責任者 広報部長 竹本瑞鼓



「華」第63号 発行:平成28年1月25日

2面 写真とコメントで綴る50周年大会
3面 各担当コメント
4面 50周年ご来賓ご挨拶
5面 成功の可否は方針と準備に
6面 漢詩作詩の楽しみ・新入会員
7面 昇段課題詩・競吟成績
8面 臨時総会・初吟会

主な記事

華洲会創立50周年記念大会 「衆心城を成す」を實踐



平成27年11月29日、
大阪市都島区「大開園ダイヤモンドホール」において「未来(あした)に向かって」をスローガンに掲げ、さらなる飛翔を誓って、華洲会50周年記念大会を挙行した。

大会会長 濱田華克先生 謝辞

会主 故三浦華洲先生の精神を引き継いで
行こう。道は未来はそこにある。

一言感謝の言葉を申し述べます。

いま出てきました「千夏ちゃん」2歳です。もう50年しても52歳です。華洲会の第17代くらいの会長は間違いないです。もう確約されております。お母さんが華洲会の青年部長をされております。だからお腹の中から子守歌は詩吟だけなんです。先ほども偶成を唄いました。少年老い易く学成り難し一寸の光陰軽んずべからず。全部覚えてるんですね。それは私たちに、「時間無駄にするなよ」というんですね。本当に大した2歳です。

さて、「同志相和し正脈を伝え」と、これは私達華洲会会主三浦華洲先生が作っていただいた華洲会歌の一節でございます。その三浦華洲先生の思いを私たちは日々心に留めて活動しております。私達だけではなくて、今は亡き先人の先生方あるいは支部長・分會等

その時その時代で華洲会のために貢献された多くの先人の方々、そのお陰で今私たちは50周年のこの舞台に立っています。もちろん今華洲会は常任理事中心で運営されております。先ほどの構成吟は如何でしたか。下は2歳から青年部・幼年幼年少年で今日はたくさん参加していただきました。詩吟に理解をしてくださったお父さんお母さんまたその子供たちをご指導されておる講師の先生、そういう先生方はライトを浴びることはないんです。それでもコツコツと華洲会の誇りをもって子ども達を指導されております。先ほど山口華雋総本部長から関吟の宝との言葉をいただきました。どうかその言葉でこの子ども達を育ててください。それが華洲会のみならず

その時その時代で華洲会のために貢献された多くの先人の方々、そのお陰で今私たちは50周年のこの舞台に立っています。もちろん今華洲会は常任理事中心で運営されております。先ほどの構成吟は如何でしたか。下は2歳から青年部・幼年幼年少年で今日はたくさん参加していただきました。詩吟に理解をしてくださったお父さんお母さんまたその子供たちをご指導されておる講師の先生、そういう先生方はライトを浴びることはないんです。それでもコツコツと華洲会の誇りをもって子ども達を指導されております。先ほど山口華雋総本部長から関吟の宝との言葉をいただきました。どうかその言葉でこの子ども達を育ててください。それが華洲会のみならず

関西吟詩の将来につながるのではと、私は通観しております。

私は昭和43年の秋、ちょうどこの晩秋の頃、普段は通ったことのない道をそれも全然場所が違わぬすけれど、忍ぶが丘というところに上司が住まいしており、そこに招待されて、その帰りに大通りと小さい細い道があり、私は単車で行ってたんですが、どういいうわけか左の細い道に入ってしまったんです。それが後で聞きましたら「高野街道」でした。まっすぐ行きますと野崎の観音さんがあり、もう少し行きますと右側に野崎公民館というのがありました。その前に小さな張り紙があり、「詩吟募集」とありました。そしてそれを見ておりましたら、後ろから恰幅の良い女性が「さあどうぞどうぞ」今日は先生が見えております。後ろからと押されるように、私は細かったんで、押し上げられるように二階に上がりましたら三浦華洲先生が居られ、そしてその隣には華洲会の初代会長宮崎華驩先生がおられました。

三浦先生はいきなりまず最初に私に声をかけたのは国はどこかと、私は山口は長州ですと答えますと、「ああそうか」とそれが最初の出会いです。その後は、ああこの先生ならば一生涯付いて行けると思っただけです。(次ページへ続く)

ご挨拶で 濱田華克会長50周年を契機に次へバトンを!!と表明

表明を受け、12月9日華洲会正副会長会、常任理事会を開催。
平成28年当初行事である1月11日の初吟会に合わせ、
新会長選任の臨時総会の開催を決定。
(臨時総会の詳細は8ページに)



写真とコメントで綴る50周年記念大会

まずは会場準備・受付・ご案内

50周年記念大会の目の当たりにすることが出来、大変な喜びで一杯です。前日のリハの時の段取りの悪さを思い出しますと、嘘のような出来栄です。多分に役員の先生方の努力の程は察して余りある事だと思えます。ほとんど徹夜、等々の声も聞こえ、一大事業を成しえた先生方に、只々感謝申し上げます。

ご案内の途中では、各先生方と一言、二言、言葉を交わすことが出来、楽しく役目を果たすことが出来ました。

それ以来ほとんど三浦華洲先生がお亡くなりになるまで、ほとんど教室を休んだ事が無い。会社の社長からいつも、会社と詩吟とどっちをとるんだといわれ、詩吟を取りますと答え、詩吟はそんな変わり者ばかりかと言われましたが、それでもありませんよと応えました。

さで今日の構成吟の前半は三浦華洲先生を取り上げました。なぜ採り上げたか。やはり50年目の節目で明日に向かつて飛翔する華洲会、その若い人たちにやはり華洲会の最初の基礎はどういう事であったのか、先ず認識していただく。本来は構成吟というのは

磨けばあととは付いてくると。詩吟だけではない、いろんなことを勉強して磨きなさいという事なんです。三浦先生は品格という言葉に口にはされています。品格を持つ責任を持つ。そして社

今日には佐々木華豊先生から会長を受けて10年目になります。その間やはり三浦先生のことばかりの思い、それを会員の皆さんに常々申し上げてきました。幸いに華洲会は今、かなりの人材が育っています。今日まで本場に温かく応援してくれました。それで以つて50周年が開けたんです。本

案内役は前回もさせて頂きました。今回は、各会派の先生方の顔、お名前が一致せず右往左往の連続でしたが5年の歳月と共に、大分覚えられていました。長の岡島先生の指示が的確だった事、それと今回、深町先生、林先生が受付に待機され、指示して下さいました。お陰様で係全員滞ることなくご案内出来た様に思えます。

歴史とか幕末物をやれば受けるんですが私はあえて三浦華洲先生を取り上げました。その三浦先生が総本部に入会された当時お出会いされた先生方は、知性あふれ、また人情味のある全てを兼ね備えた先生方の集まりで、関西吟詩の最初の良き時代だったと思います。

三浦先生は品格という言葉に口にはされています。品格を持つ責任を持つ。そして社

そのお陰で、山口先生を始め、役員の方先生方皆様が今日まで本場に温かく応援してくれました。それで以つて50周年が開けたんです。本

最後にになりましたけれども余分なことを申し上げましたがこれで私の挨拶を終わります。

受付を担当して

野崎観音支部 高橋 箏

大会当日、ご来賓の先生方に最初にお会いする大切な係で緊張感を持って準備に取りかかりました。

前日に下準備を整えていた事もあり、多少の行き違いも難なく処理できて開始待ちました。

受付時間が一斉となるのでスムーズの流れになる様に、助成の常任理事の先生方が後ろに控えて頂き、お客様をお待たせする事なくご案内できました。担当者の結束で無事仕事をすませることが出来ました。



三歳娘の入会

野崎観音支部 嶋崎 瑛

土曜日の午後には、お昼寝セットを持って教室に通っています。(連れて行かれる)

発声練習の後は、寝ている間にほとんどが終わっています。言葉覚え始め、私の吟をまねて声を出す様になりました。言葉も増え、舌足らずながら俳句や、詩も幾つか覚えられました。

幸せな事に、五十周年記念大会の大きな舞台で吟界デビューをさせて頂きました。大会の大きな舞台で吟界デビューをさせて頂きました。大会の大きな舞台で吟界デビューをさせて頂きました。



「子ども達と共に」

幼少年担当 箱田瑛優

山々が色づく好季節、50周年記念大会に幼少年担当の役員として、朝からリハーサル・本番と、子ども達と共に頑張りました。

子ども達が一丸となって頑張ったお陰で、よさこい踊り・合吟・独吟と、会場のムードを一変させる程の立派な舞台となりました。

この子達が将来の吟界を背負ってくれることを期待しつつ、心に残る記念大会を経験させて頂きました。有り難うございました。



舞台進行を担当して

俳詠伊賀支部 嶋澤正彦

今度初めて舞台進行係を仰せつかり主として進行を担当させて頂いた頂きました。なにせこのような大きな大会で裏方を担当するのははじめてのことであり前日のリハーサルの時から緊張の連続でありました。

大会が成功裏におわり関係者の一人としてうれしくもあり、また、ほっとしているのが正直な気持ちです。顧みて進行係とは何ぞや？まさに雑用係そのものであります。

先生方のご指示により右往左往し、来賓の先生方お名前、座席を確認しておくのに随分と気疲れをし、しかも宴席では酒が飲めないため素面で酔っ払いの相手をしなければならず小生にとつて全く長い一日でありましたが少しはお役に立てたかなといった気持ちであります。



有意義な記念大会

焔吟支部 河野燁

実行委員会の各先生方、そして役員の方々の周到な準備と綿密なりハーサルの元、誠に素晴らしい記念大会に成りました事に感動し、又華洲会の一員として参加させて頂いた喜びと誇りを感じております。

大会セレモニーに始まり、構成吟「未来(あした)に向かって」と移り、関ちゃん吟ちゃんの出演があり、そこに幼少年の踊りと吟詠、「明日があるさ」の合唱。何と言っても子供達の躍動感、気力、活気、活力。

それを上手く構成され引き出されました奥山先生の演出で記念大会が一段と盛り上がり会場の皆様が一様にエネルギーを貰ったのでは。

記念式典、来賓吟詠も滞りなく進み、祝賀の宴では、懇親の中、お酒も入り、日ごろお会いする事も、ましてお話しする事さえも出来かねる本部の諸先生方に、お酌させて頂きながら会話の機会が持て何かと次に向かっの色々な勉強となりました。

緊張の内に楽しく有意義な記念大会であった事に感謝いたします。

励ましの言葉をしっかりと頂く

山口華雋

関西吟詩総本部会長 祝辞

創立50周年記念大会ご盛
会おめでとうございます

三浦華州先生をはじめ先人
の諸先生の意思を引き継がれ
特に濱田華亮会長は常に人材
育成と新教場開設、また青少
年の活発な活動を推進されて
きました。それが華洲会の力
の源泉となつていると感しま
す。

安田 鷲迪

大阪地区連合会北ブロック会長 祝辞

記念大会のご盛會心からお
祝い申し上げます。

私は華洲会の濱田会長と懇
意にしていただいている関係
もあり、特にそのお人柄から
お気持ち清廉潔白で今では
珍しい武士道を大切にされて
いることに感じ入っています。

会の運営につきましても先
輩諸先生方の生き方を讃える
姿と次世代に向かって人とし
て歩む道を示して来られたこ
とで華洲会の発展に繋がって
きたと信じています。

みなとの機転・協力で
大会副運営委員長 奥山紅雋

前日のリハーサルを見てま
して、もう本場にどうなるこ
とかと思っていました。

子ども達のリハーサルは、
ほとんど当日しかなく、限られ

た時間だった。ほんとうにう
まくいくのか心配だったんで
すけれども、案ずるより産む
がやすしで、スムーズに行き
ました。これも皆さんのご協
力のおかげかと思えます。

進行もみなさんが機転を利
かし協力頂いてうまうまきま
した。

緞帳が降りました。
私は音響を担当していました
が思わず手元の音量調節ボタ
ンを最大に上げていました。
まさに感動の一言でした。

何といつても子供たちの「よ
さこい踊り」や上手すぎる吟
詠などは、
会場の会員、ご来賓の先生方
の皆さんが華洲会の未来に力
強い希望を感じられたのでは
ないでしょうか。

一年以上前から準備が始まり、
3月には進行台本初版が作成
され、数度のリハーサルを経
て、出演者や担当役員の皆さ
んがそれぞれの持ち場で知恵
を絞り確実に役割を果たされ
た結果だと思えます。

私は坂本亮綜さんに協力して、
音響と映像を担当する役割で
したが、実質的には構成吟は
全て坂本さんが素晴らしい映
像と伴奏曲のファイルを作成
して下さり、私はご来賓吟詠
の伴奏曲のみを担当すること
になっていました。



映像音響

川西北支部 小島儒岳

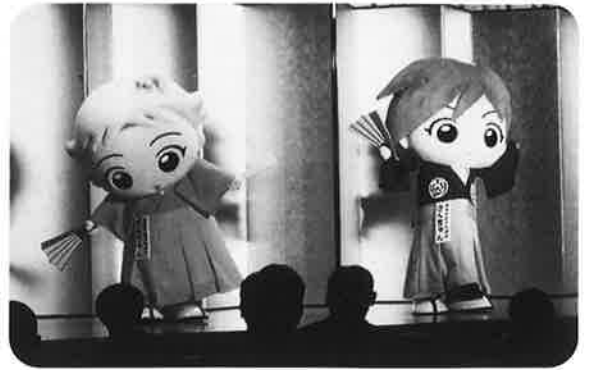
構成吟「未来に向かって」
の最後、全員による「明日が
あるさ」の大合唱とフィナー
レの音楽が高まるとともに、
会場から拍手喝采が沸き起こ
る中、華やかな舞台に静かに

の音響ファイルのUSBメモ
リーを借りて持ち帰り、夜の
うちに一部修正等を行い翌日
の本番に備えました。

当日の午前中にパソコンの設
定や音量調整が終わってから
「BGMはフェードアウトす
るように」との指示があり、
急遽システム担当スタッフに
お願いして手元に音量調節装
置を設置して貰いました。本
番中は、会場が暗かったので
持参したペンライトを口に啣
えて進行台本を見ながら、右
手でマウスを持ってパソコン
を操作し、左手で音量調節の
ボタン操作をしながら舞台進
行に合わせてBGMを流して
いました。

ご来賓吟詠も、プログラムに
沿って伴奏曲を流す予定でフ
ァイルを作成していましたが、
急に二組が一緒に合吟され
ることとなり、どの伴奏曲な
のか知らされていなかったの
で、司会者の紹介に合わせて
ファイルから伴奏曲を選択し
て流すという応急措置を行
いました。いろいろとハプニン
グも有りますが、全てのBGM
を大過なく放送することが
出来てホッとしています。

そして私も、華洲会には洋々
たる未来があることを実感し
ました。



みなさん こんにちは
かんちゃん ぎんちゃんです

華洲会50周年記念大会のクリスタルボウルと尺八の演奏、さすが奥山先生、とってもすてきな企画でしたね。私達も奥山先生のお陰で貴重な経験させて頂き、本当に幸せでした。

でも舞い上がってしまったかんちゃんぎんちゃん、ちょっと早口になってしまったの。会場が真っ暗だったので、原稿の字も全く見えなくなって困っちゃたね。

クリスタルボウルと尺八の演奏、とっても幻想的でしたね。ドッキーン。ぎんちゃん夢子になっちゃいました。

のほんと、とっても癒されましたね。

ちびっこの南中よさこい踊りとっても元気でしたね

すすいね 元氣いっぱいもらいました。

ちびっ子達とっても上手だったね

本当に上手でしたね。ちびっ子たちの詩吟を聴いて

これからもかんちゃんぎんちゃん初心を忘れず頑張ろうと誓った日でした。

成功の可否は方針と準備に！

シナリオ、プログラム、会員・来賓名簿の整理など、必要物の準備がポイント

事務局の頑張りの賜物、感謝感謝

大会副運営委員長 竹本瑞穂

当日は、午後1時からご来賓として関西吟詩の本部役員

等9名をお招きし、構成吟ナレーター・尺八演奏・舞台進行指導・剣詩舞・懇親会日本

舞踊など応援を頂きながら、華洲会会員245名の参加の下、クリスタルボウル演奏・

構成吟・式典・懇親会と盛大に執り行った。

この大会を行うに当たって、二年近く前の26年2月から

企画始動し、記念大会の意義はどうか、構成の内容は何を

中心に据えるかなど積極的に議論を重ねた。

その集約の要点は、記念大会に於いては、華洲会会主三浦華洲先生の作詩・吟詠活動を辿りながら、次代を担う青年部女性を中心とした優秀吟者と子ども達とのコラボにより、「過去から未来を展望」する構成吟とする。

この考えの下、構成吟の脚本「未来に向かって」を濱田会長が書いてくださり、華洲会優秀吟者・子ども達・青年部員を中心とした演出を奥山紅雫大会副委員長が考案した。

記念大会構成吟

大会は、会場クリスタルホール暗転の中、シャンティチャームを揺らし、たおやかに涼やかな音色を奏で乍ら女性部員の入場からスタート。

開会宣言・開会の辞に始まり国歌斉唱、関西吟歌・華洲会会歌合吟へと続く。

新しい試みとして、構成吟の中にクリスタルボウルと吟詠のコラボにチャレンジ。

この演奏に続き構成吟の中に「黙とう」「巻頭言唱和」を入れ込み、構成吟の大きな流れの中で華洲会の歴史を体感してもらいました。これの吟詠

には、三浦先生作詩抄から3題、愛吟集などから7題を。後半は元氣なちびっこを中心

に吟詠や南中よさこい踊りを披露、力強い未来を感じてもらった。

会員吟詠の最後、大合吟では宝船を華洲会全員で吟詠し大会を締めくくった。

式典

式典には日ごろお世話にな

っている10名の先生方にご登壇いただき、総本部山口華雫会長（華洲会名誉会長）、

関西大阪地区連合会会長鈴木永山先生、ご代理島原湖皚先生、地区連合会北ブロック会長安田篤迪先生から、ご祝辞と励ましの言葉を頂戴した。その後花束の贈呈に移り、華洲会の若手吟者と子ども優秀吟者箱田慎也くんから登壇者へ贈呈する。

会長濱田先生への感謝の花束贈呈は嶋崎千夏ちゃん、2歳からで、会場は大いに盛り上がった。

祝賀の宴

宴は中谷将鳳先生のご挨拶に続き、日本舞踊若柳流一級師範若柳綾秀先生の義太夫「萬歳」の踊りで始まった。

「萬歳」の踊りで始まった。続いて乾杯。ご発声は、ご来賓の曾根鷺夕先生にお願いした。余興では華洲会川西北支部箱田樞村両氏「みのる・ほそる」の漫才で場が和んだ。

宴の圧巻は、雫詠寺川高知分会の「花魁道中」でした。会員が太夫に扮し、きらびやかな緞子の衣装に高下駄姿で先達・禿を引き連れ客席をまわり舞台上へ。口上がまた、師匠の山口華雫先生の吟詠指導を肴に上手に述べ拍手喝采を受けた。お見事でした。

前日準備

大東市民会館へ舞台進行音響映像記録受付などのスタッフと構成吟出演者が集まる。シナリオに沿ってリハーサルを実施。音響・映像と演者のタイムミングが合わない。本番への不安を残す。

受付のグッズの確認や名札の整理を行う。

当日準備

朝9時から役員は会場に集結。席のレイアウトの確認、受付体制の確認、控室には、更衣スペース・会員の昼食スペース、会計控室などの設定。会場では、ご来賓の土産のセット名札の確認など。舞台上では照明点検・出入の点検映像スクリーンの確認、かんちゃんぎんちゃんの待機スペース点検などなど。あつという間に時間は過ぎる。その合間を縫って舞台の子どもの出演部分のグネプロ実施。

ほどなく12時に。ご来賓を迎える時間となりました。

漢詩作詩の楽しみ

京阪楠葉支部 坂本克綜

私は、元来漢文は苦手である。しかも漢詩の教養知識も甚だ未熟、他に作詩に造詣の深い先生方や作詩に熱心な会員先輩の手前、若輩の私がごときには覚束なくこの投稿を辞退したい心境が本音のところである。

私が漢詩作詩に興味を持ち

初めたキツカケは、詩吟を初めて入会二年後の平成十四年八月、当時の教養指導部長大木華蕃先生のお誘いの下、能田岳泉先生を講師にお招きし十数名の参加で発足、わが支部から同僚五、六人との参加が最初でした。爾来、部長は積華潤先生、故実兼〇〇先生へと変わり、凡そ八年間共に学んで参りました。その後六年間のブランクを経て、長岡

京市の漢詩研究会に参加、作詩再開し今日に至っている。詩吟は、漢詩に節をつけて朗詠する。教室では、漢詩の解説と併せ教本備考欄の説明がなされるが、当時は、全く理解し難く、教養部の漢詩作詩教室で学び通う内に次第に理解が深まったと自覚している。

先ず、作詩の必須条件として、呂山 太刀掛重男 著「だれにでもできる漢詩の作り方」と漢和辞典「漢字源」を備えることからのスタートでした。初回の作詩は、講師の選んだ課題と「韻」の中から、二・三のリズムで一行七文字を詩語表のグループから各々の感性で詩語を選び作詩する所謂白梁体の型式であったと思う。

その作品を各自が朗読発表する方法から次第に親しみ、順次ルールを学び作詩に馴れる手法であったと記憶する。作詩上達の三条件は、多作・多読・多商量と言われ、多く作る、名詩を多く読む、多く推敲すると言う意味で、今も先生の叱咤激励の薫陶を受けている。また、同時に三上といつて、枕上、廁上、馬上が詩を作る恰好の場所と

謂われる、要するにどこにいても自由自在につくれることが大切だと説く。そして、学ぶべき三つの余暇を三余と称し、年の余りである冬、日の余りの夜、時の余りの雨降りのときが最適と言われるのである。

漢詩作詩の楽しみは、四季の風景を問わず、様々な生活環境の一コマ一コマが題材であり、「詩は志を言う」の喩えでもある、心情、こころざし、身近な事象を、二・二・三、或いは四・三のリズムのパズル感覚で七言絶句を、詩語表と漢和辞典から適語を選び馴染んでゆくことだと思ふ。幸いにも私たちは詩吟を学び、その熟語・誤謬に含まれる幾多の参考文献資料がある。そして、各所に吟行に赴き、名所旧跡を訊ね歴史を学ぶ機会も多く題材に事欠かない。自作詩の推敲を幾度と重ね添削投稿、ある時は紙面が朱色に染まる叱正ご指導を受け、未熟さをまざまざと露呈。ある時は、一字の修正も無くお褒めの講評、佳作、良好作とあると自ずと笑みこぼれ嬉しさが込み上げてくる。

私は、下手は下手なりに、向上心を以って精進する気構えこそが大事と思っている。人生の後半を「詩吟に親しみ」「ボケ防止の作詩にも勤しみ」会員皆さんとの触れ合い「絆」を大切に、身分相応な過ごし方「足るを知る」楽しみ、これが一閑人無冠の楽しみではなかるうかと思う今日この頃です。

最後に、平成二十四年九月二十三日企画部・婦人部の共同主催の吟行に赴いた時の拙詩を掲載しご叱正を仰ぎたいと存じます。

勤王の漢詩人「梁川星巖」史蹟を訊ねて！
「過梁川星巖史蹟」
支韻

偉人去邑向天涯
結侶周遊共賦詩
可識尊攘憂國士
維新改業紀功碑

結侶 周遊 共に詩を賦す
識る可し 尊攘 憂国の士
維新の改業 功碑に紀す
(意訳)

偉人(星巖) 大垣藩曾根村
を出て江戸をはじめ諸国をめぐり、紅蘭と結婚の後は夫婦相伴い西国周遊の旅にて詩草を磨く。

ご存知でしょうかこのお方が尊王攘夷の志厚き憂国の士であったこと、そして明治維新改業の功績が碑に刻まれ今に残る史蹟の事を。

新入会員 入会順

H 28年 4月 12・10 受付迄

- ※子ども(中学生以下)
- 西口恵美(鳳吟大江) 吉岡奏建(同) ※吉岡勇陽(同) ※西口紀之(同) 西口日出子(同) 式村精祐(京阪樟葉) 田中美奈子(丸の内中央) 入口寛都(雋詠寺川) ※大森佐智子(川西大和) 今井照子(同) 今井敦子(同) 今井紀子(同) 今井豊治(同) 津村久美子(同) 阪田裕規(多田東) 山田智(川西北) 小北隆司(多田東) 中芝悠乃(同) ※中芝穂乃(同) ※樋口修(川西北) 五十樓俊次(雋詠京都) 市原範子(燿吟) 大和弓子(燿吟) 長井宏樹(同) 嶋田綾子(雋詠寺川) 瓦林翔太(同) 安達悦子(雋詠伊賀) 田方美紀(多田東) 是澤敬子(四条畷) 寺西勇登(清和台) 鈴木久美子(多田東) 山内春好(川西大和) 中谷美津江(鳳吟大江) 遠藤兵庫(多田東) 廣瀬千鶴子(同)

平成28年度 昇段課題詩 華洲会

| | 教本番号 | 吟題 | 作者 | |
|----|---------|-------|------|-------|
| 初段 | 1 A07-1 | 示塾生 | 廣瀬淡窓 | 新教本から |
| | 2 A16-1 | 山行 | 杜牧 | |
| | 3 A20-1 | 舟中聞子規 | 城野静軒 | |
| | 4 A21-1 | 涼州詞 | 王翰 | |
| | 5 A44-1 | 名槍日本號 | 松口月城 | |
| 二段 | 1 A02-1 | 偶成 | 朱熹 | 課題詩から |
| | 2 A11-1 | 九月十三夜 | 上杉謙信 | |
| | 3 A12-3 | 富士山 | 石川丈山 | |
| | 4 A16-3 | 花朝下灘江 | 藤井竹外 | |
| | 5 A21-2 | 遊洞庭湖 | 李白 | |
| 三段 | 1 B05-1 | 奈良懷古 | 太宰春臺 | 課題詩から |
| | 2 B05-3 | 秋思詩 | 菅原道眞 | |
| | 3 B06-2 | 近江八景 | 大江敬香 | |
| | 4 B16-3 | 山中月 | 眞山民 | |
| | 5 B21-2 | 示諸生 | 安積良齋 | |
| 四段 | 1 B02-2 | 雨後春郊 | 藤澤黄坡 | 課題詩から |
| | 2 B11-2 | 失題 | 橋本左内 | |
| | 3 B12-3 | 飛梅 | 吉嗣鼓山 | |
| | 4 B14-3 | 磯原客舎 | 吉田松陰 | |
| | 5 B23-1 | 吹笛 | 杜甫 | |

平成27年度

後期 昇段者

☆一級の部

箱田慎也 (川西北)

☆初段の部 (22人) 〓

河田 剛 (川西大和) 森政

行 (同) 飯田宏 (同) 坂根英

生 (同) 赤池保彦 (同) 小松

和代 (雋詠寺川) 樋上久代 (同)

森原 知子 (雋詠伊賀) 上野

敦 (川西豊友) 堀江栄子 (川

西北) 北浦勝 (多田東) 梅澤

☆二段の部 (18人) 〓

阿部誠 (川西北) 藤原千鶴 (同)

別所照美 (同) 小原康子 (雋

詠京都) 岩見正子 (同) 竹村

のり子 (同) 松村豊子 (雋詠

寺川) 杉本智恵子 (同) 大橋

秀敏 (川西大和) 中林奉子 (同)

林成和 (燐吟)

☆三段の部 (12人) 〓

宮里 義一 (多田東) 進也 英

子 (同) 岡進 (雋詠寺川) 神

山増己 (雋詠京都) 加川秀子

(同) 林雅彦 (同) 桜井啓義

(雋詠伊賀) 稲蔵きみ子 (指

月) 重定克則 (川西北) 樋口

智裕 (同) 鮫島秀一 (同) 若

☆四段の部 (11人) 〓

田邊義彦 (川西豊友) 菅原由

美 (指月) 村田スミ子 (京阪

樟葉)

中野宣子 (同) 清田緑 (清和

台) 里幸二 (同) 小澤陽子 (同)

岡田憲一 (雋詠寺川) 平野り

さ (川西大和) 島和夫 (川西

北) 谷和代 (多田東)

☆五段の部 (5人)

☆六段の部

齊田隆雄 (川西北)

竹本弘子 (燐吟)

末延喜美子 (雋詠寺川)

☆八段の部

富田豊 (雋詠伊賀)

☆九段の部

松田英子 (雋詠伊賀)

川端佳奈 (燐吟)

☆十段の部

永井和子 (川西北)

競吟成績 H 27年度後半

9月20日 アルカイック

一般の部

入賞 堀 香織 川西大和

入賞 嶋崎樹里 野崎観音

入賞 今井美津子 川西大和

井野善史 (指月) 秀高誠 (多

田東) 梶谷明加 (丸の内中央)

※前田玲音 (同) ※甲斐加恋

(同) ※大西幸子 (雋詠寺川

松田久恵 (同) 岡本好見 (同)

秋月俊也 (同) 北川輝 (同)

※太田仁夫 (京阪樟葉) 嶋崎

千夏 (野崎観音) ※

▲全国吟詠コンクール

9月21日 笹川記念館

少年の部 (小6〜高3)

3位 箱田慎也 川西北・小6

▲愛国詩吟総連盟二部決勝大会

10月4日

指導者の部

入賞 岡島彩鼓 川西大和

▲関吟全国新人中間層競吟大会

11月15日

新人の部

2位 川田麻衣子 雋詠寺川高知

4位 坂根英生 川西大和

5位 小笠原邦彦 雋詠寺川高知

入賞 西村恵子 雋詠寺川高知

入賞 森 政行 川西大和

入賞 赤池保彦 川西大和

入賞 上野 敦 川西豊友

入賞 中根達博 丸の内中央

▲全国指導者級吟士権者決定大会

12月13日

準師範の部

3位 堀 香織 川西大和

9位 宇野麗子 勢多

新会長に山口華雋先生が就任 新たな未来を拓く決意を述べる



華洲会長
山口華雋

新春の香が残る1月11日、成人の日に大東市市民会館にて委任状を含む47人の参加を以て新会長選任の華洲臨時総会を開催した。

総会は冒頭、濱田華兇会長の挨拶で始まり、遠藤尚豪議長の下、原案どおり山口華雋現名誉会長の会長就任と濱田華兇現会長の顧問就任について満場一致で決議した。

濱田華兇会長挨拶 (要旨)

50周年大会は、皆さんのご協力で立派な大会が出来ました。また、会長在任の10年間のご協力ありがとうございました。前会長佐々木華豊先生後を受け、私は私なりにとやうことで運営してきました。

まず人材育成が一つの大きなテーマでした。縦の線、横の線、報連相をしつかりやっていただければいい会が出来

るとの思いで運営しました。そして、なんととっても一般の会員の皆さんの声を受け止めみんな楽しく仲良くやるという事でした。

さて、本日を以て正式に華洲会の会長を退任いたします。後にご存知のように山口華雋先生にお願いしたいと思いません。



山口華雋新会長挨拶(要旨)

濱田会長は人を育てる、新会場を開設すれば三万円の補助を出すなどの積極姿勢は功を奏してきた。

吟界の中でも華洲会はエネルギーのある会として、優秀吟者もどんどん育っているとの評価を得てきた。といえども、会員獲得は華洲会も関西吟詩も悩みは同じです。

新しい人が新しい教室を作ってもらおう。新陳代謝が取れてゆかなければ明日の華洲会は無いのではないか。

顧問相談役の先生を含めて常任の皆さんも含めて徹底的に対話をしたい。徹底的に議論すべきはする。決まったことはみんな守る。このスタイルを徹底し進めてゆきたい。

基本的には濱田会長が進めてこられた、特に人材の育成の施策を継承していきたい。皆さんのご協力を御願います。



恒例の四条畷神社にこぞつて新春初詣



臨時総会に先立ち、11日午前11時から、50周年記念大会無事に終わったことを感謝し全員で富士山を奉納吟詠する。参拝後場所を大東市市民会館に移動し引き続き臨時総会に臨んだ。

会員増員表彰を受ける

平成27年度東明祭に於いて、新入会員増員表彰を受けた。受賞者は雋詠寺川支部奥山紅雋先生、川西大和支部岡島彰鼓先生、丸の内中央支部竹本瑞鼓先生の3名の先生。

奥山先生は支部表彰も

訂正とお詫び
華62号 P7競吟成績 其の2の欄、支部名「燿吟」を「燦吟」に、「樟の里」を「楠の里」に

吟詠歌謡研修日程迫る

すでにご案内の研修2月18日(木)が迫ってきました。中谷将鳳先生の直接指導による研修です。

吟詠歌謡は詩吟の深みと幅を一層広げ、新たな詩吟の世界の発見に繋がります。

また研修を通じて会員相互の親睦と交流が深まることと思えます。申し込みは企画部藤原充晟、田中尚叡、岸場鳳鷲、竹本瑞鼓まで。

【編集後記】 DVD完成

50周年、無事に盛会裏に終わりホッとしましたね。

当日は必至で頑張った部分もありましたが、終わってみれば、よくやったと言う充実感に浸れています。

さて、50周年の記念録画、出来上がってきました。この録画は次の周年大会に生かすべく、さんしゃいん社にお願いしました。購入ご希望があれば支部毎まとめて広報部迄お申し出ください。ディスクは3部に分かれています。その1、開会、構成吟1500円、その2、式典・来賓吟詠500円、その3、祝賀の宴・余興500円で検討中。もう一度染めめますよ。竹本瑞鼓